
後悔

瀧川 蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

後悔

【コード】

N4490I

【作者名】

瀧川 蒼

【あらすじ】

あるリーマンの日常風景です。

ほのぼの、さぶさぶ。

後悔、という言葉が示すとおり、悔やむという行為は過去の事象に対して行われる。

「おかえりなさい、あ・な・た（はあと）」

無言で開けたドアの向こうに、満面の笑みを浮かべたヤツがいて、思わずそのままドアを閉めた。

幻覚か？ 幻覚だよな！ だって今時見たこともないピンクのエプロンとか着けてたし！

「何だよー、閉めなくてもいいじゃん」

がちやり、と幻覚が音付きでドアの向こうから顔を覗かせた。

マジで幻覚だったらよかったのに、と俺は眉間に皺を寄せた。190cmに届こうかという大男の出で立ちとは思えない、というか思いたくない。

直視してみれば、ピンクのエプロンの下は会社帰りなのだろう、いつも通りのスラックスとカッターシャツなのだが、目線を下げるとピンクのエプロンのポケットに白のレースがあしらってあるのが見えた。どう考えても資源の無駄だ。

「……なんでここにいる」

苦虫を噛み締めたような心持ちで俺は呟く。こんなこともあるのかと、コイツには合鍵は渡していない。

「桂兄ちゃんが開けてくれたよー」

ちっ、と舌打ちして壁の向こうにいらっしゃるであろう幼なじみを睨む。便利だからといって桂志に合鍵を預けていたのがまずかったらしい。コイツはなぜか桂志に気に入られていて（たぶんコイツが絡んでくるときの俺の反応を面白がっている）、だからこそこんなことがあることをどこかで分かっていたはずだったのに。

常識人だと思っていた俺の認識が甘かった……。

「ごはんもできてるしー、お風呂もすぐ入れるよ。でも、一番はやつぱり俺だよな?」

「阿呆」

悔やんでいるうちにも、現実が進んでいく。

結局、その夜コイツを追い出すことは出来ずに、夕食も風呂もそしてベッドまで共にすることになり崩しに進められたのだった。いつもとすること同じじゃん! と言われれば、俺としても返す言葉がない。

ああ、俺の静かな夜を返してくれ。

「明日は早くから出張なんだろ、なんでわざわざ今日来るんだよ」

「来てくれそうになかったから?」

「当たり前だ、馬鹿」

ああ、コイツの考えていることは分からない。

(たとえ明日世界が滅亡してもいいように、今日一緒にいるんじゃないねー)

だからこそ、選択する行動がある。

たとえ思うとおりに世界が動かなくても、後になって悔やまないために。

(後書き)

短編ばかりですが、ブログでもアップしています。

cantare

http://cantare424.blogspot7.fc2.com/

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4490i/>

後悔

2010年11月15日16時34分発行